

- 活用の種類
- 正格活用・変格活用

1 動詞の活用の種類
古語にみられる動詞の活用の種類は、全部で九種類である。現代語の五種類と対照して示すと、次のようになる。

古語（語例）		現代語
四段活用	「行く」「思ふ」「飛ぶ」など多数	五段活用
ナ行変格活用	「往ぬ」「死ぬ」の二語	
ラ行変格活用	「あり」「をり」など四語	
下一段活用	「蹴る」の一語	
上一段活用	「着る」「見る」など約十語	
上二段活用	「起く」「過ぐ」「落つ」など多数	下一段活用
下二段活用	「受く」「出づ」「見ゆ」など多数	
カ行変格活用	「来」の一語	カ行変格活用
サ行変格活用	「す」「おはす」の二語	サ行変格活用

- 動詞の活用の「行」

- 正格活用の「段」

- 正格活用・変格活用

上にあげた九種類の活用の種類のうち、名称に「変格活用」と付く四種は、それぞれの行で不規則な活用をするものである。それに対して、残る五種類はわりあい規則的に活用するので、「正格活用」と呼んで区別することがある。

- 正格活用の「段」

正格活用の名称で「段」というのは、五十音図のどの段に活用語尾が現れるかを意味している。

- ・四段活用 アイウエオ
- ・上一段活用 アイウエオ
- ・上二段活用 アイウエオ
- ・下二段活用 アイウエオ
- ・下一段活用 アイウエオ

- 動詞の活用の「行」

未然形（または連用形）の語尾の属する行が、その動詞の活用の行になる。語尾が「す」に続く形を調べればよい。

- 四段活用

2 四段活用

動詞のうち、五十音図の **ア・イ・ウ・エ** の四段にわたって活用語尾の現れるものを **四段活用** という。

例えば、「行く」は、次のように活用する。

下に付く語例	行く	基本形
	ゆ	語幹
むず	か	未然形
たり	き	連用形
言い切り (り)	く	終止形
こと とき	く	連体形
ども ば	け	已然形
命令で 言い切る	け	命令形

- ① 〈未然形〉 河内へも行かずなりにけり。（伊勢物語・二三）
- ② 〈連用形〉 用ありて行きたりとも…（徒然草・一七〇）
- ③ 〈終止形〉 犬ども走り騒ぎ、とぶらひに行く。（枕草子・上にさぶらふ御猫は）
- ④ 〈連体形〉 行く川の流れば絶えずして…（方丈記）
- ⑤ 〈已然形〉 長々とただぎまに行けば…（枕草子・五月ばかりなどに）
- ⑥ 〈命令形〉 これ乗せて行け、具して行け。（平家物語・足指）

●四段活用のチェックポイント

- (1) 動詞の中ではこの四段活用が最も多く、活用の基礎になる。
- (2) 現代語の五段活用動詞の大部分が、四段活用に属する。
ただし、現代語の「ある」「蹴る」「死ぬ」（↓ p.22）は、四段活用ではなかった代表的な例。

- 四段活用の語尾の現れ方

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
か	き	く	く	け	け

- ① 河内の国へも行かなくなってしまうた。
- ② 用事があつて行つたとしても…
- ③ 犬どもが走り騒いで、それを見舞いに行く。
- ④ 流れて行く河の水は絶えることがなくて…
- ⑤ 長々と一直線に行くこと…
- ⑥ これ、乗せて行け、連れて行け。